

ヘルプシート

★ヘルプシートについて

- 知的障害のある**児童の実態把握、個別の指導計画の目標、指導内容を考える**ときに活用することを想定したシートです。
- 各区分A4、1枚のシートでできています。
- **発達検査や発達段階を確認する目的ではありません。**

区分	項目
<u>1 健康の保持(5項目)</u>	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること (2) 病気の状態の理解と生活管理に関すること (3) 身体各部の状態の理解と養護に関すること (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること (5) 健康状態の維持・改善に関すること
<u>2 心理的な安定(3項目)</u>	(1) 情緒の安定に関すること (2) 状況の理解と変化への対応に関すること (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること
<u>3 人間関係の形成(4項目)</u>	(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること (2) 他者の意図や感情の理解に関すること (3) 自己の理解と行動の調整に関すること (4) 集団への参加の基礎に関すること
<u>4 環境の把握(5項目)</u>	(1) 保有する感覚の活用に関すること (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること (5) 認知や行動の手掛りとなる概念の形成に関すること
<u>5 身体の動き(5項目)</u>	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること (3) 日常生活に必要な基本動作に関すること (4) 身体の移動能力に関すること (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること
<u>6 コミュニケーション(5項目)</u>	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること (2) 言語の受容と表出に関すること (3) 言語の形成と活用に関すること (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること



ヘルプシートの書き方（例）

子どもの実態チェックの基準 ○:できる。支援なしでできる △:支援など、条件があればできる ×:支援があってもできない

6 コミュニケーション	【 】さんの実態チェック	
	記入日 R 年 月	○△× 備考(様子、支援等、参考になる情報)
(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること		
色々な刺激に対して、快・不快を表出しようとする	○	
話しかけている相手や、相手の示している物を見ようとする	○	
指さしや身振りを見て、求められている事を理解し、それに応じた行動をしようとする	○	
適切な方法(言葉、身振り等)で拒否の気持ちを伝えようとする	○	
適切な方法(言葉、身振り等)で支援を求めようとする	○	
表情で自分の感情や意思を表そうとする	○	
話を注意して聞こうとする	×	短期記憶が苦手
(2)言語の受容と表出に関すること		
名前を呼ばれると振り向いたり、気づいたりできる	○	
挨拶に応じることができる	○	
要求の選択ができる(ex.○と△なら○が良いと選んで伝えられる)	○	
言葉で要求を伝えることができる	△	感情が高ぶると奇声が出てしまう
質問をすることができる	○	
質問を聞き、答えることができる	○	
言葉で他人の助けを借りることができる	○	
(3)言語の形成と活用に関すること		
自分の考えや気持ちを単語を組み合わせて伝えることができる(要求、コメント)	○	
自分の考えや気持ちを的確に言葉にすることができる(要求、コメント)	○	
質問に的確に答えることができる	○	
(4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること		
身振りで自分の考えや気持ちを伝えることができる	○	
写真や絵カードを活用し、自分の考えや気持ちを伝えることができる	○	
文章で自分の考えや気持ちを伝えることができる	○	
コミュニケーション機器を活用し、自分の考えや気持ちを伝えることができる	○	
(5)状況に応じたコミュニケーションに関すること		
状況に応じて、それにふさわしい言葉遣い、音声、声の大きさと話することができる	×	状況にかかわらず、声が大きくなりがち、声の大きいことに気が付いていない
相手の立場や気持ちなどに応じて、ふさわしい言葉遣いができる	△	自分本位で話してしまう

子どもの実態によって、項目内容のウェイトが違います。強みになる項目や気になる項目は備考欄を活用して、書き留めます。

あらわれが改善されてきたり、変容してきたりしたら加筆・修正をしていきます。

キーワード



受容と表出、言語理解、語彙、表情、身振り、手振り、会話の仕方、構音器官の特徴



1 健康の保持		【 】さんの実態チェック	
記入日 R 年 月		○△×	備考(様子、支援等、参考になる情報)
(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関すること(習慣化しているかどうか)			
覚醒と睡眠の体内リズムが整っている (起きる時刻、寝る時刻がほぼ定まっている)			
偏食せず、何でも食べることができる			
食べ物をよく噛んで食べることができる			
喉が渴いたら、必要な水分を摂ることができる			
排泄のリズムが整っている			
手が汚れたら手を石鹸で洗い、ハンカチで拭くことができる			
歯磨きができる(しっかりと磨くことができる。)			
うがいができる			
よだれや鼻水を拭くことができる			
季節や寒暖に応じて衣服の調整ができる			
(2)病気の状態の理解と生活管理に関すること			
疲れや不調がわかり、体を休めることができる			
かゆいところを掻きむしらず、患部に薬を塗ることができる(ex.アトピー等)			
包帯や傷テープなどを取らずにいられる。			
(3)身体各部の状態の理解と養護に関すること(病気やけが等による身体各部の状態について)			
怪我や体の痛み部位を、なんらかの方法で大人に伝えることができる			
保健室で簡単な処置を受けることができる(ex.検温、消毒など)・・・嫌がらない			
(4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること			
学習や生活をしやすい環境にするために、どうしてほしいのかを伝えることができる。			
自分の荷物を所定の場所に片付けることができる			
(5)健康状態の維持・改善に関すること			
体を動かすことを嫌がらずに楽しく体を動かすことができる			
一日の学校生活を元気に過ごすことができる			

キーワード



覚醒と睡眠、体温の調節、衣服の調整、脈拍、呼吸、

2 心理的な安定		【 】さんの実態チェック	
		記入日 R 年 月	備考(様子、支援等、参考になる情報)
(1)情緒の安定に関すること			
喜怒哀楽の感情を何らかの方法で表出できる			
好きな活動があり、それらに集中して取り組むことができる			
初めての活動や過去に失敗したことのある活動に対しても、安定した気持ちで取り組むことができる			
自分の思いと違う事に対しても、折り合いをつけて応じることができる 			
自傷行為や他害行為がなく、落ち着いている			
こだわっている物事(特定の物や常同行動)から離れても、安定した気持ちでいることができる			
怒りや悲しみ、不安の感情を引きずらないで気持ちを切り替えられる術がある 			
役に立つ喜びを感じることができる			
(2)状況の理解と変化への対応に関すること			
短時間であれば、見通しをもって「待つ」ことができる			
スケジュールを理解し、見通しをもって活動に取り組むことができる			
場所や場面、指導者の変更を理解し、落ち着いて取り組むことができる			
行事など平常時と違う場合でも、落ち着いて適切な行動をとることができる			
生活の中で起こり得る状況の変化を予測することができる。			
(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること			
自分のできることやできるようになったことを賞賛されるとうれしいと感じたり、自信をもったりすることができる 			
できない事でも否定的にならず、取り組もうとすることができる			
心配、不安な事を大人に伝え、自分なりに不安感を和らげながら前向きに取り組むことができる			

キーワード



情緒の安定、状況の理解、変化への対応、見通し

3 人間関係の形成		【 】さんの実態チェック	
記入日 R 年 月		○△×	備考(様子、支援等、参考になる情報)
(1) 他者との関わり方の基礎に関すること(気持ちと行動、両面から考える)			
特定の大人からの働きかけを受け入れて行動できる			
不特定の大人からの働きかけを受け入れて行動できる			
大人の注意をひく行動がある(適切な注目行動)			
友達への関心がある			
教師の合図や指示に合わせて動くことができる			
相手と同じ物や方向に注意を向けることができる			
誰とでも楽しさや気持ちよさを感じることができる			
家族を大切にしている			
(2) 他者の意図や感情の理解に関すること(気持ちと行動、両面から考える)			
相手の表情や態度、語気から相手の感情を推測し、共感することができる			
相手の「やめて」の身振りや言葉で自分の行動を抑制したり、変更したりできる			
他者のよいところと言える			
(3) 自己の理解と行動の調整に関すること(気持ちと行動、両面から考える)			
自分の得意なこと、苦手なことがわかる			
「できます」、「できません」などの返答ができる			
自分がしてしまった誤った行動をやり直すことができる			
拒否する時に、落ち着いて言葉や態度で伝えることができる			
自分の良さや特徴を言うことができる			
自分の思いを適切に表現して、行動することができる			
友達の行動から自分を振り返ることができる			
(4) 集団への参加の基礎に関すること(気持ちと行動、両面から考える)			
集団活動を嫌がらずに参加できる			
他者と一緒に遊ぶことができる			
他者と協力して活動できる			
集団活動の場で自分がいるべき場所や、すべき事を理解し、その場にとどまったり、活動したりすることができる			
集団の中でのマナーやルールを理解し、守ることができる			
他者を取りなすことができる			

キーワード



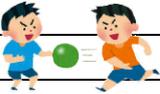
自己理解、他者理解、集団活動への参加

4 環境の把握		【 】さんの実態チェック
記入日 R 年 月	○△×	備考(様子、支援等、参考になる情報)
(1) 保有する感覚の活用に関すること(保有する感覚を活用できているかどうか)		
人から触られても拒まない。また、自分から人に触れることができる		
自分から色々な物に触れ、それらの感触を受け止めることができる		
遊具などを使った動き(前後・上下・左右の揺れ、回転)の中で、身体の傾きや動きの方向・速さの変化を感じ取ることができる		
人や物を注視したり、追視したりできる		
特定の人の声や自分に関係する音に注意を向けることができる		
いろいろなにおいを感じとることができる		
(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること		
不快な刺激を受けた時、周りの大人に不快感を訴えたり、表現したりできる		
不快な刺激があり、それに対して自分で対処する術がある (ex.不快な音に対しイヤマフをつけたり、その場を離れたりする)		
苦手な刺激を少しずつ受け入れたり、慣れたりすることができる		
写真、文字、イラストなどの視覚的な手がかりをもとに物事を理解できる(視覚優位)		
話を聴くなどの聴覚的な手がかりをもとに物事を理解できる(聴覚優位)		
(3) 感覚の補助及び代手段の活用に関すること		
眼鏡や補聴器等を活用し、周りの状況を把握することができる		
(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること		
動作模倣ができる		
色々な場面で、目的や状況に応じて行動することができる		
いろいろな感覚を使って周囲の状況を把握することができる		
(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること		
日常的によく使う物の名前がわかる(ex.靴、鞆、水筒等)		
色々な物に触れて事物を弁別できる(ex.材質、硬さ、大小、温度、重さ等)		
色々な事物を見て、その違いを弁別できる(ex.形、色、大きさ等)		
・音の強弱、リズム、テンポの違いがわかる		
・自分の物と人の物を区別することができる		
・自分の身体の空間関係がわかる(ex.手を前に出す、手を上にあげる等)		
・分割された絵や形を構成したり、分解したりできる		
・具体物や絵、形の一部を見て全体をイメージできる		
・物の特徴や種類、用途等で仲間集めをすることができる		
・時間がわかる。順序把握ができる(ex.時間の長さの認知、朝昼夜の経過の認知、曜日や季節の経過の認知、時計やカレンダーの利用)		
直前に見たもしくは聞いた物事を覚えていることができる(ex.1つの物を見た後で、指示に応じて、同じ物をとる等)		

キーワード



**感覚(視覚、聴覚、触覚、嗅覚)、
認知(記憶、思考、判断、決定、推理、イメージの形成)の活用、
状況の把握**

5 身体の動き		【 】さんの実態チェック	
記入日 R 年 月		○△×	備考(様子、支援等、参考になる情報)
(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること(技能)			
ふらふらせず、その場で立ち続けることができる			
肘をついたり、体を物にあずけたりしないで、座っていることができる			
様々な姿勢で移動できる (ex四つ這い、横歩き、後ろ歩き、前跳び、スキップ、ケンケン等)			
サーキット運動のように、様々な姿勢を組み合わせた運動をすることができる			
手足や身体を自分で意識的に動かすことができる(筋肉の曲げ伸ばし、関節を緩める)			
ボールを転がす、投げる、捕る、蹴るなどの動きができる			
両足を揃えて跳ぶことができる			
自転車に乗って、ペダルをこぐことができる			
(2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること			
補装靴を履き、安定して歩くことができる			
(3)日常生活に必要な基本動作に関すること(技能)			
手に荷物を持ち、落とさず運ぶことができる			
衣服の着脱動作が身についている。また、着脱した衣服の後始末ができる			
食器を持ち、道具(スプーン、フォーク、お箸等)を正しく使って食事できる			
歯ブラシをきちんと持って、磨く動作ができる			
顔を洗って拭くことができる			
お風呂で体を自分で洗うことができる			
洗髪することができる			
筆記用具を持って書字・描画動作(なぐり書き、なぞり書き、視写等)ができる			
(4)身体の移動能力に関すること(技能)			
座位から立位、立位から座位へとスムーズに姿勢を変えることができる			
ぎこちない動きなどが見られず、安定した歩行ができる			
足場が不安定な所や遊具(冒険とりでなど)でもバランスをとりながら歩いたり、体を支えたりすることができる			
手すりを使わず、階段の上り下りができる			
(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること(技能)			
机上での作業や学習ができる姿勢をとることができる			
一定の時間、持続してごく簡単な作業ができる			
物を握ったり、放したりすることができる			
力の加減ができる(指先、手、足)			
両手を協応させて作業できる(ex.消しゴムを使ってきれいに字を消す、ペットボトルのキャップを回して外す、紐を結ぶ)			
目と手を協応させて作業できる(ex.線にそってはさみで切る、ひもをきれいに結ぶ、針に糸を通す)			
1cm以下の物を指先でつまんで、スムーズに穴に入れることができる			
道具を使って手指を動かすことができる(ex.ピンセットなどの道具を使って物をつまむ)			

キーワード



筋緊張、姿勢(座位、膝立ち位、立位など)、歩行、階段昇降、握る、つまむ、両手を使った動作、日常生活動作

6 コミュニケーション	【 】さんの実態チェック	
	○△×	備考(様子、支援等、参考になる情報)
(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること(気持ちがあるかどうか)		
色々な刺激に対して、快・不快を表出しようとする		
話しかけている相手や、相手の示している物を見ようとする		
指さしや身振りを見て、求められている事を理解し、それに応じた行動をしようとする		
適切な方法(言葉、身振り等)で感情や意思を伝えようとする		
適切な方法(言葉、身振り等)で支援を求めようとする		
話を注意して聞こうとする		
(2)言語の受容と表出に関すること		
名前を呼ばれると振り向いたり、気づいたりできる		
挨拶に応じることができる		
要求の選択ができる(ex.○と△なら○が良いと選んで伝えられる)		
言葉で要求を伝えることができる		
質問をすることができる		
質問を聞き、答えることができる		
適切な言葉で他人の助けを借りることができる		
(3)言語の形成と活用に関すること		
自分の考えや気持ちを単語を組み合わせて伝えることができる(要求、コメント)		
自分の考えや気持ちを的確に言葉にすることができる(要求、コメント)		
質問に的確に答えることができる		
(4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること		
身振りで自分の考えや気持ちを伝えることができる		
写真や絵カードを活用し、自分の考えや気持ちを伝えることができる		
文章で自分の考えや気持ちを伝えることができる		
コミュニケーション機器を活用し、自分の考えや気持ちを伝えることができる		
(5)状況に応じたコミュニケーションに関すること		
状況に応じて、それにふさわしい言葉遣い、音声、声の大きさと話することができる		
相手の立場や気持ちなどに応じて、ふさわしい言葉遣いができる		

キーワード



**受容と表出、言語理解、語彙、表情、身振り、手振り、
会話の仕方、構音器官の特徴**

リサーチシート 記入例

区分	観点	表れ
健康の保持	覚醒と睡眠 体温の調節 脈拍、呼吸 食事 排泄 清潔・衛生 健康状態の把握	<ul style="list-style-type: none"> 睡眠時間、夕飯の時間が不規則  
心理的な安定	情緒の安定 状況の理解 変化への対応 見通し	<ul style="list-style-type: none"> 情緒は比較的安定しているが、他者（同学年）に強く言われると感情的になり、落ち着くまでに時間がかかる。 指示が聞けていないことがある。 
人間関係の形成	自己理解 他者理解 集団活動への参加	<ul style="list-style-type: none"> 誰とでも仲よくしようとする。 集団活動はみんなと一緒にできる。 自分の長所、短所を理解しようとする。 
環境の把握	感覚（視覚・聴覚・触覚・嗅覚） 認知（※） 状況の把握	<ul style="list-style-type: none"> 細かい作業をしていると注目すべき箇所が分からなくなる。 片眼の視力が悪く、両目のバランスをとるためか顔を斜めに見る。 上履きの左右、給食着の裏表が逆になっていることが多い。 
身体の動き	筋緊張 座位、膝立ち位、立位 歩行 階段昇降 握る、つまむ 両手を使った動作 日常生活動作	<ul style="list-style-type: none"> 機能上は問題ないが、姿勢の保持が難しい。 作業は速いが、雑なことが多い。 <div style="border: 2px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> <p>「表れ」は子どもによって、内容が違います。全ての区分が埋まらないこともあります。また、表れが起こる具体的な場面が分かれば書いておきます。</p> </div>  
コミュニケーション	言語理解（語彙） 表情・身振り 会話の仕方の特徴 構音器官の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 早口 思いついたことはすぐに喋ってしまう。 身体全体で自分の気持ちを表そうとする。 言葉はいろいろ知っている。 相手のことを意識せず、一方的に話を進めることが多い。 

※ 認知とは、感覚を通して得られる情報を基にして行われる情報処理の過程であり、記憶する、思考する、判断する、決定する、推理する、イメージを形成するなどの心理的な活動である。

リサーチシート

区分	観点	表れ
健康の保持	覚醒と睡眠 体温の調節 脈拍、呼吸 食事 排泄 清潔・衛生 健康状態の把握	
心理的な安定	情緒の安定 状況の理解 変化への対応 見通し	
人間関係の形成	自己理解 他者理解 集団活動への参加	
環境の把握	感覚（視覚・聴覚・触覚・嗅覚） 認知（※） 状況の把握	
身体の動き	筋緊張 座位、膝立ち位、立位 歩行 階段昇降 握る、つまむ 両手を使った動作 日常生活動作	
コミュニケーション	言語理解（語彙） 表情・身振り 会話の仕方の特徴 構音器官の特徴	

※ 認知とは、感覚を通して得られる情報を基にして行われる情報処理の過程であり、記憶する、思考する、判断する、決定する、推理する、イメージを形成するなどの心理的な活動である。

2

長期目標（年間）

周りの状況を考えて、自分の考えを伝えたり、行動したりすることができる。

短期目標（半期）

話合いの場面で、友達の意見を聞いてから自分の考えを伝える。

実態に沿った内容で目標を立てているかどうかを確認します。

○や△でチェックし、自立活動の区分で重点的に押さえないところが一目で分かるように示します。



1

健康の保持

心理的な安定

人間関係の形成

環境の把握

身体の動き

コミュニケーション

(1)生活のリズムや生活習慣に関する事	(1)情緒の安定に関する事	(1)他者との関わりに関する事	(1)保有する感覚の活用に関する事	(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	(1)コミュニケーションの基礎的能力に関する事
(2)病気の状態の理解と生活管理に関する事	(2)状況の理解と変化への対応に関する事	(2)他者の意図や感情の理解に関する事	(2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	(2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事	(2)言語の受容と表出に関する事
(3)身体各部の状態の理解と養護に関する事	(3)障害による学習上又は生活上の困難改善・克服する意欲に関する事	(3)自己の理解と行動の調整に関する事	(3)感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	(3)日常生活に必要な基本動作に関する事	(3)言語の形成と活用に関する事
(4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事		(4)集団への参加の基礎に関する事	(4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握や状況に応じた行動に関する事	(4)身体の移動能力に関する事	(4)コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
(5)健康状態の維持・改善に関する事			(5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	(5)状況に応じたコミュニケーションに関する事
・睡眠時間、夕飯の時間が不規則。	・他者に強く言われると感情的になる。 ・気持ちの折り合いをつけることが苦手。	・誰とでも仲よくしようとする。 ・場を仕切ってもうまくまとまらない。	・片眼の視力が悪く、両目のバランスをとるためか、顔を斜めにして見る。	・姿勢の保持が苦手。 ・手先が不器用。	・相手のことを考えずに一方的に話すことが多い。

どの授業、どの時間でもできることを考えることで、目標に対して、一貫性のある指導・支援ができるようになります。

3

指導内容
手立て
指導場面

- ・ 友達の考えを聞いてから自分の考えを伝える。
- ・ 活動前に事前に言葉掛けをする。その時間の振り返りの時間で奨励する。
- ・ 「国語」「算数」を中心とした各教科の学習での集団活動、ペア活動、休み時間の遊び

個別の指導計画の目標、自立活動の指導内容、手立て、指導場面を考える際には、一人で抱え込まずに関係する職員に相談して、多面的に考えます。



2

長期目標（年間）

短期目標（半期）



1

健康の保持

心理的な安定

人間関係の形成

環境の把握

身体の動き

コミュニケーション

(1)生活のリズムや生活習慣に関する事	(1)情緒の安定に関する事	(1)他者との関わりに関する事	(1)保有する感覚の活用に関する事	(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	(1)コミュニケーションの基礎的能力に関する事
(2)病気の状態の理解と生活管理に関する事	(2)状況の理解と変化への対応に関する事	(2)他者の意図や感情の理解に関する事	(2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	(2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事	(2)言語の受容と表出に関する事
(3)身体各部の状態の理解と養護に関する事	(3)障害による学習上又は生活上の困難改善・克服する意欲に関する事	(3)自己の理解と行動の調整に関する事	(3)感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	(3)日常生活に必要な基本動作に関する事	(3)言語の形成と活用に関する事
(4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事		(4)集団への参加の基礎に関する事	(4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握や状況に応じた行動に関する事	(4)身体の移動能力に関する事	(4)コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
(5)健康状態の維持・改善に関する事			(5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	(5)状況に応じたコミュニケーションに関する事

3

指導内容
手立て
指導場面

--	--

国語		単元名（題材名） どんなお話？（物語を考えて友達に伝えよう） ☞1 子どもたちにわかりやすい単元名（題材名）になっているか？	
指導期間	月 日（ ）～ 月 日（ ）	場所	〇組
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を手掛かりにして、文中における主語、述語、修飾、被修飾の関係に気付くことができる。 ・語と語や文と文の続き方に注意し、内容のまとまりが分かるように物語を書くことができる。 ・話がつながることの楽しさやよさを実感し、ペアの考えに関心をもとうとしている。 ☞2 目標は生活に生きることを考えた表現になっているか？		
単元を通した主な活動内容	物語づくり	自立活動との関連	人間関係の形成（2）（3） ペアのことを考えて、自分の言動を調整する力を伸ばす。 ☞3 自立活動の内容が押さえられているか？

本時（2/4）☞4 学習課題や学習問題が「子どもの視点」で考えられているか？

活動内容	〇主なあらわれ	※具体的な自立活動の指導・支援	・留意点
	事例児 A児		
物語づくりのデモンストレーションを見たり、聞いたりする。	登場人物の動きに注目して、写真が表す場面を説明する文章を作ろう。		
写真の場면을説明する文づくり	〇よし、続きを考えるぞ。 〇Bさんと言いつ争いにならないようにしよう。		
A児、B児ペア C児、D児ペア E児、F児ペア	1～4の場面の様子が伝わるようにするためには、どんな文を付け足そうか。		
	〇①は「木を」、②は「水を」が必要だ。 〇主語と述語だけでは、意味が分からないときがあるんだ。 ・例示した物語の文章を使い、主語と述語をつなぐためには、名詞＋助詞が必要な場合があることに気が付くようにする。		
	① 前時の続きの場面を考える。（主語・述語に気を付けて、各場面の中心になる文章を考える。） ② 考えた物語をペアに向けて、読む練習を行う。 ③ ペアで互いに作った物語を発表し合う。 ④ ペアごと、どちらかの文章を発表する。		
	〇「この間は主語を忘れてしまったから、今日は気を付けよう。」 ① 〇ペンギンが、きょうりゅうをよんでいます。ペンギンの近くには、大きな穴がありました。きょうりゅうは、穴に入りました。きょうりゅうが穴をほると、たくさんお湯が出ました。ペンギンときょうりゅうは喜びました。 ・各場面の中心になる文章を考えたら、必要に応じて、場面をつなぐための文章を考えるように言葉掛けをする。 〇何かここがつながっていないような気がする。つなぐ文章が必要かなあ。		
	② 〇上手くつながっているかなあ。 ③ 〇Bさんとどちらの物語にしようか。 ※A児とB児は共に、自分の主張を言いつばなしになることが予想される。ペア活動の前に、相手の考えに耳を傾けるためのポイントを示した絵カードを提示し、互いの考えを取り入れ、物語を作るように支援する。		
	④ ・発表が終わった後に簡単な質問（「だれが」、「どうした」等）をして、文中の主語、述語、修飾語、被修飾語の関係を理解できているかを確認する。 E児、F児さんペアの発表が楽しかった。		
振り返り 頑張ったこと、次に頑張りたいことを発表する。	〇次は面白い会話文を考えたい。 〇物語づくりをまた、やりたいです。 〇でも、Bさんと言いつ争いにならないかな。		
準備物	場面の写真、ワークシート、絵カード（ペア活動の際に気を付けること「ゆずりあい」「譲く」「なるほど」「確認」）		
教科の目標と評価		自立活動の内容に関するあらわれ	
A児・・・主語・述語や名詞＋助詞の関係を考えて、写真の場面の様子を表す文を書いたり、場面と場面をつなぐ文を書いたりすることができる。 →二文を一文にまとめてしまい、主語・述語の関係が間違っていた文になっていた。内容が二つなってしまうことを、整理して伝えたり、一文に絞るように言葉掛けを行ったりすることで、主語・述語の関係を意識して、正しい文に直すことができた。		A児・・・ペア活動を行う直前に、譲り合うことや相手の主張を受け入れることを示した絵カードの提示をした。どちらの作った物語を発表するかをB児と相談するときには、提示した絵カードを見て、互いに譲り合って発表する方を決めた。譲るということを意識している。しかし、譲り合いになったときには、どうすれば良いのかが、まだ分からないようである。次時に発表の順番や意見の集約で譲り合いになったときには、譲られたら相手の思いに感謝し、「ありがとう」と言葉に出して伝える大切さを話していく。	

☞5 本時の子どもの姿から次の授業をつくる。

		単元名（題材名）	
		☞1 子どもたちにわかりやすい単元名（題材名）になっているか？	
指導期間	月 日（ ）～ 月 日（ ）	場所	
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ ☞2 目標は生活に生きることを考えた表現になっているか？		
単元を通じた主な活動内容		自立活動との関連	☞3 自立活動の内容が押さえられているか？

本時（ / ） ☞4 学習課題や学習問題が「子どもの視点」で考えられているか？

活動内容	○主なあらわれ	※具体的な自立活動の指導・支援	・留意点
	事例児（ ）		
準備物			
教科の目標と評価		自立活動の内容に関するあらわれ	

☞5 本時の子どもの姿から次の授業をつくる。